

地域再生計画(地方創生汚水処理施設設備推進交付金)中間評価調査

都道府県名	千葉県	事業実施主体	君津富津広域下水道組合、君津市	地域再生計画名	水の恵み豊かなまち・君津再生計画
計画期間	平成27年度～平成31年度	評価責任者	君津富津広域下水道組合 建設課長 三ツ俣 光浩、君津市 環境衛生課長 廣橋 顕徳		

	指標	基準値		中間目標値		最終目標値		中間目標値の実現状況に関する評価			
		基準年度		年度	中間実績	基準年度		中間評価			
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標1	浄化槽整備地区における合併処理浄化槽普及率の増加	23%	H25	24%	H29	28.9%	24.5%	H31	○	合併処理浄化槽の使用人口の増加等に伴い、普及率が目標より上昇した。
	指標2	公共下水道加入人口の増加	40,267人	H25	40,267人	H29	42,939人	43,967人	H31	○	計画外で実施した未普及対策に関する事業の効果もあり、公共下水道加入人口が増加している。事業が完了した際には目標値を達成できる見込みである。
	指標3	自然体験学習実施校数(君津市内の公立小中学校全28校中)	18校	H25	28校	H29	18校	28校	H31	△	悪天候など不可抗力により実施できず、中間目標値までいかなかったが、基準値の18校は実施した。
	指標4	君津市の全域の定住人口増加(住民基本台帳)	88,316人	H25	89,274人	H29	85,181人	89,583人	H31	×	定住人口の中の公共下水道加入人口等は増加しているが、全体数は目標値を下回る結果となった。

②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標1										
	指標2										

③事業の進捗状況	事業名	整備量(その他の事業では取組内容)			事業の進捗状況に関する評価
		計画	中間年度(H29)	最終実績見込み	
特別措置を適用して行う事業	浄化槽(整備基数)	215基	88基	174基	平成27年度から29年度までの申請件数は、それぞれ、29基、30基、29基となっており、申請件数は見込みを下回っている状況であり、今後、毎年の補助限度基数の43基を見込んで、目標達成は困難な状況である。そのため、合併処理浄化槽普及率の向上を図るため、更なる啓発をする必要がある。
	公共下水道(整備延長)	5,458m	1,126m	2,849.9m	君津台地区については完了見込みであるが、中野地区、中富地区について事業進捗が遅れており、達成が困難な状況である。
その他の事業					
計画外で独自に実施した事業	自然体験学習推進事業	小学生、及び中学生を対象とする自然体験学習を家庭、地域、学校、行政の4者が協力して実施する。			事業を実施する学校数は天候に影響される場合があるが、実施した学校の参加者からは参加する前より君津市が好きになった等の意見が多数となっており、郷土を愛する心を育むことに貢献できていると考えられる。
	小糸川遊魚まつりの開催	ジジマスの放流や掴み取り、ウナギ掴み体験、投げ網の体験を通して、河川の環境保全に対する理解、意識の高揚を図る。			第12～14回の小糸川遊魚まつりについて、すべて計画通り行われ、参加者は第12回424名、第13回233名、第14回532名が参加し、本イベントの目的を達成することができた。このことから、郷土の自然への愛着心や環境保全への意識向上を図ることができたと考えられる。
	君津富津終末処理場整備事業	汚水の高度処理化をすすめ、東京湾の水質保全に寄与する。			高度処理化が完了したのは全6池のうち平成28年度に完成した5～6池の2池であり、今後1～4池に関しては改築更新に合せて高度処理化を行う予定である。
	観光地としてのインフラ整備・施策	市内の観光地の遊歩道や案内板、トイレなどのインフラ整備と、(仮称)清和観光交流センターや亀山駅前広場の建設などの観光施策をさらに推進し、観光客等の交流人口の拡大を図る。			平成27年度には三島ダム公衆トイレの改修工事を行い、平成28年度には亀山駅前交流広場園路の駐車場、平成29年度には案内板整備などを行った。清和観光交流センターについては、H29年度に事業計画を見直すこととし、今後の計画は未定である。また、清水溪流広場(濃溝の滝・竜岩の洞窟)に、SNSをきっかけに多くの観光客が訪れるようになり、臨時シャトルバスの運行や交通誘導警備員の配置、駐車場の整備などを行った。

④評価方法	水の恵み豊かなまち・君津再生計画評価委員会にて学識経験者等の意見を聴取し、中間目標値の実現状況に関する評価・検討等を行った。
⑤中間評価の公表方法	君津市及び君津富津広域下水道組合のホームページに掲載

⑥計画全体の総合評価	君津市の全域の定住人口は減少したが、汚水処理施設整備交付金の活用により、浄化槽整備地区における合併処理浄化槽普及率、公共下水道加入人口については、目標を達成し、事業の完了により更に増加することが期待される。一方で、公共下水道整備地区の一部の整備が遅れが生じており、また、浄化槽についても補助金申請の件数が見込みを下回ったことなど、整備量の達成が困難な状況である。独自に実施した事業では環境保全に対する理解、意識の向上、郷土愛を育むことができた。全体を通して環境保全に対する事業推進がおおむね良好に行われている。
------------	---

⑦今後の方針等	郷土愛を育むことや環境保全への意識向上を図るうえで、水質に寄与する公共下水道及び浄化槽の整備は必要不可欠である。君津市内の定住人口は減少傾向にあるが、公共下水道については計画事業の完了により公共下水道加入人口が更に増加し、浄化槽整備地区については合併処理浄化槽普及率の向上を図り、住環境を整えることで定住人口の減少抑制が期待できる。このことから、公共下水道については、君津台地区を計画期間内に完了できるよう整備を進めるとともに、進捗状況が遅れている中野・中富地区は進め方を再検討しながら順次整備していく。また、学校へパンフレット等を配布、処理場で実施している見学会などの機会を活用して普及促進や環境保全に対する意識等の向上を図れるよう検討していく。浄化槽については、広報紙やホームページ等を活用し、合併処理浄化槽の普及促進に努めるとともに、補助金対象地域にはパンフレットを配布するなど、設置数増加に向けて更なる啓発に努める。
---------	--